



ピーク・ディストリクトのイーデル村遠景
(2012年9月 飯塚 遼 撮影)

地理空間学会ニューズレター

TOPICS

- ・第7回大会の案内(第1報)
- ・第17回例会のお知らせ
- ・第6回大会の報告, 巡検報告
- ・総会報告
- ・第16回例会の報告
- ・学会賞受賞者コメント(水谷千亜紀, 久木元美琴)
- ・寄贈図書紹介
- ・学会からのお知らせ
- ・コラム「わたしのフィールドから」(飯塚 遼)

JAGS

<最新ニュース>

- ・地理空間学会は日本学術会議協力学術研究団体に指定されました。
- ・機関誌「地理空間」第6巻2号が2013年12月20日に発行されます。

第7回大会の案内(第1報)

地理空間学会では、第7回大会を下記の通り開催いたします。

【日程】

2014年6月28日(土): 評議員会, 研究発表会, 総会, 懇親会
6月29日(日): 巡検(詳細未定)

【会場】

立教大学新座キャンパス(予定)

※詳細は順次ホームページに掲載します。

第17回例会のお知らせ

地理空間学会では、第17回例会を下記の通り開催いたします。

【第17回例会】

- ◆2014年2月4日(火) 14:00~18:00
- ◆筑波大学東京キャンパス文京校舎 122 講義室
- ◆報告者・題目「農業・漁業・工業における高齢者の役割と意義
ー地理学者のフィールドワークからの知見ー」

【農業】植村円香 東京大学総合文化研究科

【漁業】横山貴史 神奈川大学人間科学部

【工業】湯澤規子 筑波大学生命環境系

※参加費無料, 事前申し込み不要です。

※例会後, 懇親会を開催いたします。

※皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第6回大会の報告

6月29日(土)、6月30日(日)に筑波大学において第6回大会が開催されました。大会参加者81名。下記の研究発表が行われ、活発な議論が展開されました。

【一般発表】

橋本暁子* (筑波大)・兼子 純 (筑波大)・全 志英 (筑波大・院)・横山貴史 (神奈川大)「在来市場の分布からみた釜山市の商業的特徴」

双木俊介 (文教大・非)「明治期東京における旧大名屋敷の宅地開発と借地人の特徴 ―麻布霞町を事例として―」

淡野寧彦* (愛媛大)・包 翠栄 (愛媛大・院)・淡野明彦 (奈良教育大・名誉)「中国内モンゴル自治区アラシャー盟左旗における牧畜経営の展開」

若本啓子 (宇都宮大)「家畜防疫における地理情報の活用とその課題 ―家畜防疫マップシステムを中心に―」

貝沼恵美 (立正大)「多言語国家における教授用語決定の困難性」
泉 貴久 (専修大松戸高, 筑波大・院)「社会参加能力育成という観点から見た地理教育の意義について ―他領域との比較から考察する―」

【会長講演】

内山幸久 (立正大)「日本における果樹生産の展開」

【ポスター発表】

新井悠司 (筑波大・院)「関東地方における観光行動からみた日光湯元温泉の役割」

青木茂治 (水城高・非)「茨城県北部にみられる藁人形の習俗―由来伝承・人形の特徴・行事内容の記録―」

中川紗智 (筑波大・院)「近現代における明延鉦山町の変容」
矢ヶ崎太洋 (筑波大・院)・一ノ瀬友博 (慶応義塾大)「東日本大震災以前の記憶と地域イメージの復元―宮城県気仙沼市舞根地区の事例―」

秋元菜摘 (東京大・院)「高齢社会における公共交通を利用したモビリティの変化―青森市と富山市の事例―」

上野李佳子 (筑波大・院)「景観維持における定年帰農者の役割―山口県萩市を事例に―」

羽田 司 (筑波大・院)「長野県須高果樹産地における農協共販の展開戦略」

山中博希 (筑波大・院)「神戸市・兵庫運河における機能の変化と地域住民の意識からみた地域活性化」

栗林 慶 (筑波大・院)「東濃地域における陶磁器生産の地域分化」
川村一希 (筑波大・院)「宇都宮市中心部におけるオフィス立地の変容」

落合李愉 (筑波大・院)「群馬県大泉町におけるブラジル人の就労形態からみた生活様式の変容」

久保亮史 (筑波大・院)「福岡市における交通流動の時空間構造」
水谷千亜紀 (国立環境研)「高時間分解能データセットを用いた土地利用の変遷―つくば市中央部を事例に―」

横山貴史 (神奈川大)「東日本大震災と漁業復興 ―牡鹿半島東浜地区の2年―」

※総会終了後、筑波大学春日地区内食堂で懇親会が開催されました。参加者55名。

巡検報告

第6回地理空間学会大会2日目となる2013年6月30日に、大会巡検を実施しました。当日は天候にも恵まれ、地理空間学会の内外から22名の方にご参加を頂きました。今回の巡検では「大河川と地域発展―利根川流域の経済と文化をたどる―」と題し、日本を代表する大河川が近世から今日まで流域に与えてきた影響を、経済と文化に注目し、茨城県古河市を中心に現地で観察しました。

当日はつくば市をバスで出発し、利根川流域である茨城県南西部の自然環境を概観しつつ、古河市内の工業団地を見学しました。古河市中心市街地に到着後は一時解散して各自で昼食を取り、JR古河駅西口に再集合しました。

午後は駅西側に広がる、旧古河城を中心とした文化地域を徒



写真 古河市の蔵を利用した文化・観光施設にて

(2013年6月30日 落合李愉 撮影)

歩で巡りました。古河駅西側には、利根川および渡良瀬川の水運によって近世に発達した商業機能を背景に、現在でも多くの文化施設が残っております。その多くは今日、古河市のアーバ

ンツーリズム構想のなかで活用されています。多数残存している蔵の利用や旧武家屋敷、花街跡、日光街道跡などの景観観察をしながら、アーバンツーリズム構想におけるそれら史跡の活用や近年の地域変容に対する理解を深めました。特に蔵を利用した「篆刻美術館」やツーリスト向け休憩施設「坂長」、旧古河城跡に建設されている「古河歴史博物館」では近世以来の古河市における豊富な文化的蓄積に触れることができました。「古河歴史博物館」では近世期の蘭学者「鷹見泉石」が国内外から大量に収集した古地図を閲覧することができました。また移動中には、巡検当日に開設された、蔵を活用した複合施設「み

らい蔵」に出会い、古河市観光連絡協議会の方からお話を伺うことができました。

その後は再度バスに乗り、つくば市へ移動しつつ茨城県南西部の近郊農業の現況観察や、「つくばテクノパークいわい」における国内最大級の太陽光発電システム（いわゆるメガソーラー）の見学をおこないました。

当日はすべての行程を滞りなく遂行することができました。末筆になりますが、本巡検にご参加くださいました皆様とご協力を頂きました方々に厚く御礼を申し上げます。

（巡検オーガナイザー：福井一喜、益田理広）

総会報告

日 時：2013 年 6 月 29 日(土) 16:45～17:45

場 所：筑波大学筑波キャンパス春日地区 7A105 教室

参加者：45 名

地理空間学会 2013 年度総会は、2013 年 6 月 29 日(土)16:45～17:45、筑波大学筑波キャンパス春日地区 7A105 教室にて開催された。山下清海常任委員長の開会の辞、内山幸久会長の挨拶があった。次に中村周作会員を議長に選出し、大石貴之会員に書記を委嘱した。

①会務報告（山下常任委員長）

◆会員数

2013 年 6 月 27 日現在 291 名（一般会員：222 名、大学院生会員 59 名、学生会員 10 名）

◆大会の開催

第 5 回大会を 2012 年 6 月 30 日、7 月 1 日に筑波大学東京キャンパスで開催した（参加者：91 名）。

◆例会の開催

・第 14 回例会（2012 年 9 月 27 日）筑波大学筑波キャンパス（参加者：38 名）

福島義和（専修大）：長崎市斜面居住の現状と課題 一水の浦地区を事例に一

・第 15 回例会（2012 年 12 月 6 日）筑波大学筑波キャンパス（参加者 48 名）

田林 明（筑波大）：農業・農村地理学の調査・研究手順 一黒部川扇状地からの発想一

◆機関誌「地理空間」の刊行

機関誌「地理空間」第 5 巻 1 号を 2012 年 6 月 20 日に、第 5 巻 2 号を 2012 年 12 月 20 日に刊行した（論説 1 編、研究ノー

ト 4 編、紙碑 1 編、書評 4 編、学会記事等を掲載）。

◆ニュースレターの発行

第 14 号（2013 年 1 月 28 日）、第 15 号（2013 年 4 月 26 日）、第 16 号（2013 年 6 月 8 日）

◆ホームページ・メーリングリスト（jags-ml）の運営

◆2013 年度学会賞

選考委員会：井田仁康（委員長）、岩間信之、仁平尊明、村山祐司（事務局）

【特別賞】

山本正三

受賞対象：山本正三ほか編『小農複合経営の地域的展開』二宮書店、400p., 2012 年 4 月。ほか多数

溝尾良隆

受賞対象：溝尾良隆『観光学と景観』古今書院、229p., 2011 年 6 月。ほか 10 点の著作。

【学術賞】

平岡昭利

受賞対象：平岡昭利著『アホウドリと「帝国」日本の拡大—南洋の島々への進出から侵略へ』明石書店、279p., 2012 年 11 月。

【奨励賞】

久木元美琴

受賞対象：久木元美琴「地方温泉観光地における長時間保育ニーズへの対応—石川県七尾市の事例から—」『地理学評論』83, pp.176-191, 2010 年 3 月。

Kukimoto, M.F., The use of communication tools among Japanese mothers living in France. *NETCOM-Networks and Communication Studies*,

24(1/2), pp.47-62, 2010 年.

Kukimoto, M., Wakabayashi, Y. and Yui, Y.,
Production of local childcare culture in Okinawa
and the impact of policy change. *Geographical
Review of Japan Series B*, 84, pp.60-70, 2012 年 3
月.

水谷千亜紀

受賞対象：Mizutani, C. and Murayama, Y., Analytical framework
for polygon-based land use change. *SIGSPATIAL
Special*, 3(3), pp.15-20, 2011 年 11 月.

Mizutani, C., Construction of an analytical framework
for polygon-based land use transition analyses.
Computers, Environment and Urban Systems,
36(3), pp.270-280, 2012 年 5 月.

Lwin, K., Murayama, Y. and Mizutani, C., Quantitative
versus qualitative geospatial data in spatial
modeling and decision making. *Journal of
Geographic Information System*, 4(3), pp.237-241,
2012 年 6 月.

市川康夫

受賞対象：吉田国光・市川康夫・花木宏直・栗林 賢・武田
周一郎・田林 明「大都市近郊における社会関
係からみた稲作農家の農地集積形態」『地学雑
誌』119, pp.810-825, 2010 年 10 月.

市川康夫「中山間農業地域における広域的地域営
農の存立形態ー長野県上伊那郡飯島町を事例
にー」『地理学評論』84, pp.324-344, 2011 年 7 月.

市川康夫「フランス条件不利地域における山地農
家の経営戦略ーマッシフ・サントラル、メザ
ン地域を事例にー」『地学雑誌』121,
pp.1010-1029, 2012 年 12 月.

遠藤貴美子

受賞対象：遠藤貴美子「東京城東地域におけるカバン・ハン
ドバック産業集積の存立基盤ー企業間の受発注
連関とコミュニケーションの分析を通じてー」
『地理学評論』85, pp.342-361, 2012 年 7 月.

遠藤貴美子「東京城東地域におけるカットグラス
産業の生産・流通構造変化ー「江戸切子」の創
造的側面に着目してー」『地域経済学研究』25,
pp.106-121, 2012 年 12 月.

2012 年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され、そ
の収支について会計監査人より適正であるとの承認を受けた
ことが報告された。2012 年度決算案は異議なく承認された。

<一般会計>

収入		単位：円
費目	2012 年度予算	決算
繰越金	483,294	483,294
会費	617,000	610,000
機関誌販売	160,000	120,000
貢超過料金	200,000	200,000
大会参加費	20,000	23,000
合計(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)	1,480,294	1,436,294

支出		単位：円
費目	2012 年度予算	決算
地理空間印刷費	1,000,000	691,510
大会運営費	230,000	201,009
通信運搬費	70,000	68,135
消耗品費	20,000	4,566
事務費	60,294	420
予備費	100,000	0
繰越金	0	471,074
合計(2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)	1,480,294	1,436,294

＜特別会計（地理空間学会学術基金）＞			単位：円
収入	決算額	支出	決算額
前年度繰越金	398,831	2012 年度一般会 計への支出金	0
寄付金	500,000	次年度繰越金	898,831
合計	898,831	合計	898,831

③2013 年度事業計画案（山下常任委員長）

2013 年度事業計画について、『地理空間』第 6 巻 1 号・2 号
の刊行，例会の開催，ニューズレターの発行，ホームページ・
メーリングリストの管理・運営が提案された。2013 年度事業計
画は異議なく承認された。

④2013 年度予算案（兼子会計委員長）

2013 年度予算案について，収入と支出に関する説明がなされ
た。2013 年度予算案は異議なく承認された。

単位：円

収入		支出	
繰越金	471,074	地理空間印刷費	800,000
会費	553,000	大会・例会運営費	260,000
機関誌販売	120,000	通信運搬費	80,000
著者負担金	200,000	消耗品費	20,000
大会参加費	20,000	事務費	74,074
		予備費	130,000
2013 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日	1,364,074	2013 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日	1,364,074

⑤「地理空間」掲載論文の web 公開（松井編集委員長）

「地理空間」掲載論文について、刊行後半年を経た論文は、全文を PDF で web 公開されることが報告され、異議なく承認された。

⑥投稿規程および執筆要綱の一部改正（松井編集委員長）

【文献記述例】 監修の場合は「編」を「監修」に置換。

⑦役員・専門委員会の構成（山下常任委員長）

次期役員および専門委員会（2012 年 7 月 1 日～2014 年 6 月 30 日）の構成員について提案され、了承された。

会長：内山幸久（立正大）

会計監査：手塚 章（筑波大名誉）、矢ヶ崎典隆（日本大）

常任委員：山下清海（常任委員長，筑波大），呉羽正昭（庶務委員長，筑波大），兼子 純（会計委員長，筑波大），森本健弘（集会委員長，筑波大），松井圭介（編集委員長，筑波大）

評議員：井田仁康（筑波大），伊藤 悟（金沢大），伊藤徹哉（立正大），小口千明（筑波大），小野寺 淳（茨城大），加賀美雅弘（東京学芸大），兼子 純（筑波大），川瀬正樹（広島修道大），菊地俊夫（首都大），呉羽正昭（筑波大），小林岳人（松戸国際高），小宮正実（帝国書院），篠原秀一（秋田大），須山 聡（駒沢大），平 篤志（香川大），高橋重雄（青山学院大），田林 明（筑波大名誉），堤 純（筑波大），中西僚太郎（筑波大），中村周作（宮崎大），中村理恵（前橋高），仁平尊明（北海道大），根田克彦（奈良教育大），橋本雄一（北海道大），平岡昭利（下関市大），松井圭介（筑波大），丸山浩明（立教大），村山祐司（筑波大），森本健弘（筑波大），山下亜紀郎（筑波大），山下清海（筑波大），山下宗利（佐賀大），若本啓子（宇都宮大）

＜専門委員会＞

庶務委員会：呉羽正昭（委員長），磯野 巧，大石貴之，橋爪孝介

会計委員会：兼子 純（委員長），栗林 賢，福井一喜，羽田 司

集会委員会：森本健弘（委員長），山下亜紀郎（副委員長），池田真利子，市川康夫，卯田卓矢，遠藤貴美子，石坂 愛

編集委員会：松井圭介（委員長），堤 純（副委員長），井田仁康，小口千明，須山 聡，田林 明，中西僚太郎，橋本暁子，橋本雄一，丸山浩明，村山祐司，矢ヶ崎典隆，山下 潤，Thomas C. Waldichuk

（書記）：小野澤泰子，橋本 操，益田理広

学会賞選考委員会：井田仁康（委員長），岩間信之，中村周作，仁平尊明，村山祐司（事務局）（※2013 年 7 月 1 日～2014 年 6 月 30 日，1 年間）

第 16 回例会の報告

以下の通り，第 16 回の例会が開催され，活発な議論がなされました。参加者 63 名。

【第 16 回例会】

◆2013 年 9 月 21 日(土) 14:30～17:30

◆筑波大学東京キャンパス文京校舎 119 講義室

◆報告者・題目

・西山弘泰（うつのみや市政研究センター・研究員）：

「東京圏郊外における都市化と小規模開発住宅地の変容—埼玉県富士見市関沢地区を事例に—」

・阿部和俊（愛知教育大学・名誉教授）：

「私の研究遍歴—人文地理学のアイデンティティ再考—」

なお，第 16 回例会の要旨は，「地理空間」第 6 巻 2 号に掲載します。

学会賞受賞者コメント

この度、地理空間学会 2013 年度（第6回）学会賞の奨励賞を受賞された水谷千亜紀会員、久木元美琴会員から受賞のコメントをいただきました。

奨励賞 水谷千亜紀（国立環境研究所）

この度、平成 25 年度地理空間学会賞奨励賞を賜わり、誠にありがとうございました。感謝申し上げます。受賞対象となりました以下の3本の拙稿は、「土地利用の推移に関する空間分析 - 茨城県つくば市を対象として - 」、都市研究、第9号、75-87」とともに、2011年度筑波大学に提出した博士論文の一部を成すものです。

- Mizutani, C., and Murayama, Y. 2011. Analytical framework for polygon-based land use change. *SIGSPATIAL Special*, 3(3), 15-20.
- Mizutani, C. 2012. Construction of an analytical framework for polygon-based land use transition analyses. *Computers, Environment and Urban Systems*, 36(3), 270-280.
- Lwin, K., Murayama, Y., and Mizutani, C. 2012. Quantitative versus qualitative geospatial data in spatial modelling and decision making. *Journal of Geographic Information System*, 4(3), 237-241.

なぜ土地利用が変化するか？というシンプルな問いに端を発し、研究を進めていくうちに、そもそも土地利用の「変化」

を我々はどのように認識しているのか？また「変化」をどのように表現するのがよいのか？という点に関心が移って行きました。そこでたどり着いたのが、ベクトル型のデータで曲線的な境界線を再現できるポリゴン型データによる時系列情報の管理でした。詳細は論文に譲りますが、構想から論文発表、そして学位論文の提出に至るまで、指導教員の村山祐司先生をはじめ、諸先生方のご指導・ご鞭撻を賜りました。とくに村山先生からは、研究者としての国際競争力を高める重要性を教えてくださいました。そのご指導により、国際誌への論文掲載や国際学会での受賞に繋がったのだと理解しております。また院生生活をとおして苦楽をともにした同窓の皆様と、研究に関することはもとより、将来の目標や人生について語り合い、励ましかった日々は、今の私の糧となっております。皆々様にこの場をお借りして御礼申し上げます。また、今回の受賞を励みにより一層、研究を進めて参りたいと存じますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。受賞の御礼の言葉とさせていただきます。

奨励賞 久木元美琴会員（大分大）

このたびは地理空間学会賞・奨励賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。これまでご指導やご支援をくださった皆様に、心より御礼申し上げます。

私は、子育て支援や保育の問題を中心に、地理学の視点から福祉・公共サービスについて研究しています。今回の受賞対象論文でも示しました通り、保育の供給や需要には地域差があり、それぞれの地域の社会・経済・政治といったさまざまな要因が影響しています。このような地域的文脈や空間性を考慮に入れた子育て支援や福祉政策のあり方を考えるのが私の研究課題です。同時に、地域の福祉や公共サービスという個別の事業の特徴や問題を検討するだけでなく、現代的な諸問題から「都市」や「地域」を逆照射する試みに挑戦しております。

日本の地理学では少し珍しいトピックであり、隣接他分野の研究者とも交流機会が多いため、日々、「この研究の地理学としての意義は何か」という問いと対峙せざるをえない私にとって、このたびの受賞は、温かく背中を押していただいたような、まさに文字通り大きな励みに感じています。同時に、研究手法や視角の点で、まだまだ乗り越えるべき課題が多いことも痛感しており、今回頂戴しました奨励賞は、そうした意味でも激励をくださったものと理解しております。今後、より大きな研究に展開していけるようこれまで以上に精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。このたびは本当にありがとうございました。

寄贈図書紹介

横山昭市会員より論文を寄贈いただきました。

横山昭市 2013, 「地理学教育の展開と地理学研究の潮流 ―愛媛大学法文学部の半世紀を主に―」, 愛媛の地理 22 : 34-37.

学会からのお知らせ

<庶務委員会からのお知らせ>

地理空間学会は、2013 年 9 月 24 日、日本学術会議協力学術研究団体に指定されました。

<会計委員会からのお知らせ>

1. 会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、若干名、過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納の方は、「地理空間」第 6 巻 2 号に同封します振込用紙でお支払下さい。複数年度未納の方は、別途請求書をお送りしますので、期間中に必ずお支払下さい。納付したか不明な方や振込用紙を希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。大学を通じて電子振込みをされる場合には、必ず氏名とご所属先の明記をお願い致します。

[年会費の振込先]

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00120-5

口座番号：779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ”ロイチキュウテン）

預金種目：当座

口座番号：0779957

受取人名：チリクウカンカ”ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円 大学院生会員 2,000 円

学生会員 1,000 円

2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さまの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

[地理空間学会学術基金の内容]

名 称：地理空間学会学術基金

目 的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として、その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

募集対象：本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

ご依頼額：1 口 2 万円（何口でも可能です）

[振込方法]

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00150-3

口座番号：707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ”ロイチキュウテン）

預金種目：当座

口座番号：0707452

受取人名：チリクウカンカ”ツカイカ”クシ”ユツキキン

※ 基金への寄付をしていただいた方のお名前は、機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。お名前の掲載をご希望でない方は、「匿名希望」とご記入下さい。不明な点は、事務局までお問い合わせ下さい。

<編集委員会からのお知らせ>

1. 次号以降の投稿について

第7巻1号は、2014年6月の発行を予定しております。原稿は随時受け付けており、査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究、書評ま

で幅広く受け付けております。会員皆様の活発な寄稿をお待ちしております。投稿規程や執筆要領については、地理空間学会ホームページをご覧ください。

2. 定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため、会員の皆さまの研究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検討

いただけますようお願い申し上げます。ご購入いただける場合には、学会事務局までお知らせ下さい。

3. 「地理空間」掲載論文のリポジトリ等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には、大学等の学術リポジトリや著者本人のホームページ等へ自著の論文

の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までご連絡下さい。

コラム「わたしのフィールドから」

飯塚 遼（首都大・院生）

表紙の写真は、ピーク・ディストリクト北部にあるイーデル村の遠景です。

ピーク・ディストリクトは、1951年に指定されたイングランド北部に位置するイギリス最古の国立公園です。地層の観点からみると、ピーク・ディストリクトは砂岩層からなる北部と石灰岩層からなる南部に分けられ、その岩石の色合いから北部は「ダーク・ピーク」、南部は「ホワイト・ピーク」とよばれています。そのため、ピーク・ディストリクトでは農業としての牧羊業のほか、古くから採石業や石材加工業といった工業が盛んであり、現在でも多くの石材工場が立地しています。村の周囲には、写真のような牛や羊が草を食むのどかな風景が広がっています（写真1）。ピーク・ディストリクトの丘と谷が織りなす景観美は、日本人観光客に人気のコッツウォルズや湖水地方にもひけをとみません。16世紀の囲い込み以来耕地を区切ってきた石灰岩の石壁が、ピーク・ディストリクトの農村景観の特徴となっています。

およそ1,400km²もの広大な国立公園の内部には、石造りの家々が立ち並ぶ美しい村が点在しており、休日にはパブリック・フットパス（公共の散策路）を使って村々を巡るトレッキング客でにぎわう観光地となります（写真2）。パブリック・フットパスは通行が法律で認められている公共の散策路で、その一部にはとても散策路には見えない牧草地や民家の庭などの私有地も含まれています。ピーク・ディストリクトには網の目のようにパブリック・フットパスが張り巡らされ、それらを通して気軽にトレ



図 研究対象地域

ッキングを楽しむことができます。また、近年ではマンチェスターやシェフィールドといった都市からのアクセスがよいことから、農村での暮らしを求める都市住民の流入が目立つようになってきています。移住者の増加は、景観の美化や税収の増加といったプラスの側面をもつ一方、物価や不動産価格の上昇により、地元の若者たちが生活しにくくなるという問題も引き起こしています。そのような問題を解決するため、ユールグレイヴ（写真3）をはじめとするいくつかの村では、住民を中心とするNPOが空き家を購入して安価で若者たちに提供したり、比較的安価な住宅を新たに建設したりする動きもみられるようになってきています。



写真1 オーバー・ハットン村と放牧地



写真2 パブリック・フットパス



写真3 ユールグレイヴの集落景観

編集後記

ニュースレターでは学会関連情報を適宜掲載していきますので、掲載すべき情報やご要望がございましたら、事務局までお寄せ下さい。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では、会員間の情報交換の手段として、メーリングリスト（jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp）を開設しております。すでに多くの方に参加いただいておりますが、まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方は、ぜひご参加下さい。

JAGS Japan Association on Geographical Space

地理空間学会ニュースレター 第17号

発行日：2013年12月7日

発行所：地理空間学会事務局

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学生命環境系地球環境科学専攻内 地理空間学会事務局

TEL/FAX 029-853-6873

E-Mail geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp

URL <http://jags.ne.jp/>